

## 市内文化施設利用者団体懇談会（第2回）概要

1	懇談会名	市内文化施設利用者団体懇談会
2	日 時	平成20年9月19日（金） 午後7時から8時30分まで
3	会 場	上田市民会館2階大会議室
4	出席者	利用者団体代表者等79名
5	出席委員	龍野副委員長、成沢委員、山崎委員、石川委員、岡村委員、小川委員、竹内委員、宮下委員、宮本委員、
6	市出席者	大沢政策企画局長、小菅教育次長、 伊藤交流・文化施設建設準備室長、中部文化振興課長、 若林交流・文化施設建設担当係長、室賀係長、徳田主任、
7	運営支援業務受託者	室賀建築設計事務所 室賀欣一氏
8	公開・非公開等の別	公開・一部公開・非公開
9	記者	1人
10	概要作成年月日	平成20年9月22日

### 内 容 等

1	開会（大沢政策企画局長）
2	あいさつ 副委員長：8/1に交流・文化施設等整備検討委員会がスタートし、「交流・文化施設」と「市民公園・広場」の整備について検討、来年2月に報告書をまとめる予定。検討委員会ではこれまでに3回の会議を行っており、今後は先進地の視察などを行いながら、市民3,000人を対象とし現在実施中の、施設整備に関するアンケートのほか、様々な形で市民の皆さんからご意見を頂戴していく。なお、検討委員会の中に、学識者を中心とした専門委員会を設け、専門的な議論も行う予定。今日はせっかくの機会に、ぜひ忌憚のないご意見をいただきたい。限られた予算のなかで、全ての意見を報告書に反映できるかは難しい面もあるが、参考にさせていただきながら検討してまいりたい。
3	検討委員、事務局（市）出席者自己紹介
4	趣旨説明 事務局：（配布資料の説明） 次に、資料はお配りしていないが、交流・文化施設等整備検討委員会について紹介したい。この委員会は、有識者、各種団体、地域代表、公募の計25名で発足し、これまでの経過や市の公共利用の基本方針、まちづくりや周辺地域の利活用の方針を踏まえ、今後整備する交流・文化施設等の基本コンセプト（基本理念・目標）施設整備の概要（内容・規模・機能など）管理運営方法の方向性などについて検討し、来年2月には結果を市長に報告する予定。今年11月頃には中間報告として素案をいただき、12月頃にはその内容を市民公聴会にて公表、意見募集し、またパブリックコメント（意見募集）なども行いながら、市民の皆さんから様々なご意見をいただく。市としては、検討委員会での検討結果と市民の皆さんの意見を基に、今年度内に整備基本計画を策定し、事業完了は平成24年度内を目標としている。今後、「交流・文化施設などの整備に関する意向調査（市民アンケート）」、今日と一昨日に開催の利用者団体懇談会など、様々な機会を通じて市民の皆さんの意見をお聞きしながら、多くの市民が集い、賑わい、誇りに思える施設となるよう取り組んでいく。今日は、今後の検討委員会での議論や方向性を定めていくため、日ごろ美術活動などにご尽力、お取り組みされている方々、そして市民の方々から、施設の現状や新施設に対するご意見、ご要望などをいただきたい。
5	懇談 副委員長：今日は懇談会ということだが、皆さんからご意見を頂戴するという趣旨であり、基本

的にはいただいた意見に対する回答は行わないため、ぜひ活発な意見をいただきたい。  
なお、次第の(1)～(3)は一括して行う。どなたからでもご発言ください。

参加者：今日は上田市の美術館をどのように決めるかの正念場の大事な日。もし美術館が造られないとすれば、上田市は最低都市になり下がるが、そんなことはあり得ない。市長は文化創造のビジョンを掲げ、造らなければならないと使命感を持って苦心してきたはず。文化とは創造へのチャレンジである。昨年、市長はJT跡地の利活用について「交流・文化施設とは、～文化・芸術機能を加えた複合施設」と位置づけ、市議会では「上田市に総合的な芸術文化施設を造る件についての請願」を採択、教育委員会の「文化芸術振興に関する基本構想」の中でも「文化交流の舞台として機能する、新たな文化拠点の整備が必要」と明示されている。また市長は、交流・文化施設等整備検討委員会へのあいさつとして「決定プロセスの透明性、全市民を巻き込んだ議論の積み重ねを併せて期待する。～千曲川沿いに広がる圏域・文化圏においてのシンボルとなるような施設とし、～新生上田の文化・芸術的な土壌を再認識、発見し、育み、そして、輝くものとするため、～次世代の子どもたちが誇りうるような、都市の風格が漂い、文化薫るまち上田、創造都市上田の実現に向けご支援ご協力をお願いする。」としており、まさに、創造拠点施設としての美術館がスタートしたと考えている。近隣市などには美術館あるのに上田市にはなく、これは「奇跡的に」ないといえる。美術館が出来るよう、みなさん一生懸命話し合ひましょう。

参加者：市の方針として「新上田市のシンボルとして」、また「文化・芸術的機能を加えた」という表現がある。「文化・芸術的施設」ではなく、「文化・芸術的機能」であることから、相当力を入れていかないと、シンボルとしての施設はできない。市民会館を移転しただけではシンボルにはならない。文化・芸術的機能を持っただけでも不十分。長野県に確固たる地位を築いてきた山本鼎、石井鶴三、ハリー・K・シゲタらの芸術活動を顕彰する、まさに上田市のシンボルとしてのふさわしい整備を強く要望する。

参加者：学校の図工・美術の授業の中に「鑑賞」の内容があるが、上田市には美術館などの施設が少なくあまり行われていない。将来のある子ども達が、夢を馳せ、素晴らしい美術に触れられ、また自分たちの作品も展示できるような、学校の授業と連携が取れるような美術館が必要。

参加者：昨年石井鶴三美術館で、一般と小中高生を対象に、粘土を使って自分の顔を作り、それを石膏にする企画をした。しかし、よい開催場所が見つからず、結局上小教育会館の2階にシートを敷いて実施した。汚してはいけないので、また、粘土を使うので水道が必要になりとても大変であった。大人も子どももそこで制作ができ、特に子ども達は、良い美術に触れ、感性を磨き、優しさを学べるような美術館が必要。

参加者：明後日から県展が始まるが、やはり良い開催場所がなく上田城跡公園体育館で開催する。午前9時から午後5時まで総勢約70人で準備をしたが、シート張りや別施設からのパネルの借り出しなどが非常に大変で作品の飾り付けまでいかない。上田市に美術館があれば、全て午前中で終わっているはず。また、私は上田市に住んでいながらも、施設がないために東御市や青木村の美術館で個展を開いている。上田市内でポスターを掲示したいと希望したら、市内での開催でないために断られたこともある。このように、現在のの上田市は悲惨な状況。子どもからお年寄りまでが訪れるような、美術館やホールがあり、川が流れ、一日いても飽きないという、そういう場所が必要。美術館だけが必要ということではなくて、上田市が考える総合施設の中に、美術館も加えてほしいということ。

参加者：上田彫塑研究会では、研究室に適当な場所がなく、この50数年で7か所も変わっている。子ども達の美術教育のためにも、作品や資料を研究できる施設を付属してほしい。また、他の美術館から作品が借りられて展示もできる、資料室のようなものもあればよい。

参加者：大人達が、子ども達が育っていくための理想の環境を作っていく、その中で美術館も造っていく。大人達はそうした責任を負う必要があり、今の、そして将来の子ども達に申し訳が立たないような結論を出すわけにはいかない。150億円という予算から施設の整備

を考えるのではなく、理想の施設を考えてから、その理想に対して予算を充てていくという方法にすべき。

参加者：先日読んだ本の中で「言葉では表現できないものが芸術作品で表現される」とあった。つまり感情を表現するものが美術ということであろう。また昭和22年の学習指導要領には、図画工作の授業は「発表力の養成」が重要とされており、人は思想や感情を表現・発表する際、「言葉・文章による場合」と「絵画・図などの造形的なものによる場合」があり、前者は「時間的・抽象的」なことを発表するのに適し、後者は「空間的・具体的」なことを発表するのに適する。またこれらは一方を以って他に代えることはできない、としている。このことから、美術は国語と同じくらい重要ということになる。今の教育は言葉に偏っている部分があるが、色や形というものを通して自分の気持ちを表現する場合もあり、それらを発表できる場が必要。

参加者：今日私も体育館で県展の準備をしていたが、シート張りなど実に大変。8月に松本で同様の展示を行ったが、搬入などが非常に楽なこともあり、たった2時間で全て終了した。この違いは本当に歴然としている。県展の60年史を読んでいると、1945年当時の県知事らの文章があったが、文化芸術がいかに大切かということが切々と書かれており大変驚いた。人間にとって文化は空気と同じくらい重要だということを、自分の言葉で書かれている。今こそ、私たちは美術館を通して文化を取り返さなければいけない、目覚めなければならない。宗教なども疲弊しているこの時代で、倫理などが復興するとすれば、美というものを通してしか人間の倫理観は生かされてこない。私達が考えている美術館は単なる箱物の美術館ではない。私達は30年間美術館を恋焦がれてきているわけで、ここで2~3分で話せるわけがない。胸の中にたぎるような思いがある。儲からないとか、利益が上がらないとか、病院が大事だとか、そういう視点で論じられると美術館は永遠にできない、美術館の必要性をぜひ真剣に考えられ、上田に、2時間くらいで県展ができるような美術館を希望する。

参加者：私達の考える施設には理念がある。この理念を抜粋して申し上げる。私達が考える施設は合併4市町村の市民によって造る、全ての市民のための施設。この21世紀に生きる子ども達に、青年に、全市民に、夢と、希望と、感動と、誇りを与える施設。新上田市の目指す人間性、創造性、豊かな都市像のシンボルとしての施設。21世紀の人間性、創造性探求の場。上田市が21世紀における理想都市創造の一つの拠点となる施設。美術教育の聖地信州上田、文化薫る広域東信濃の中核都市上田が文化創造発信拠点活動を展開する施設。人間性豊かな、新しい都市を創造していく総合文化施設。これらビジョンの実現に努め、施設の全て、隅から隅まで行政と一致協同して造りたい。皆さん、思いのたけを話しましょう。

参加者：まずホールについて、良いホールでないと、良い音楽は来ない。美術館は、良い収蔵庫ないと良い作品がこない。スペインなどでは、小さな美術館に多くの子ども達が訪れ、彫刻などに自分の手で触れることができる。このように子ども達には、音楽にしる、絵画にしる、良い作品に触れてほしい。今ではなく、将来のために施設が必要。そして、千曲川や太郎山、またJT跡地には大きい木がたくさんある。これらの自然を全て利用し、巨大なものでなくてよいから、自然の中に、素晴らしい、上田市民が誇れる美術館、ホールを希望する。

参加者：上小教育会館の2階に石井鶴三美術資料室がある。昨年度までは市の施設を借り、美術館として作品を展示していたが、建物の老朽化、資金面などから現在の場所に移転した。現在の展示等の状況では、博物館法上の「美術館」の名前は使えない。上小教育会の会費で運営していることから、厳しい予算で、また受付などもほとんどボランティアで運営し、開館時間も美術館の時より短くなっている。美術館の時には県外からも多くの来館があったが、今は看板などもあまり大きく出せないことで、見学者が少なくなってい

る。上小地域を題材とした作品も数多くあるので、多くの皆さんにご覧いただきたい。そのためにも、新しい美術館が必要。

参加者：以前、私の父も創造館で作品を展示したことがあるが、場所がややみすぼらしい気がした。また、必ずしも有名な作家の作品である必要はないので、地方でしか見れない、地方で活躍した作家の作品を展示する美術館がほしい。

副委員長：他にご発言は。

参加者：(なし)

副委員長：まだ少し時間が早いので逆にお聞きしたい。現在実施中のアンケートの中で、美術館の内容について尋ねるための、次のような設問がある。

「交流・文化施設として美術館を設置するとしたら、とくにどのような施設がよいと思われますか。あてはまる番号に3つまで 印をつけてください。

- 1 上田市が所蔵する郷土の芸術家(山本鼎等)の作品の常設展示を中心とした施設
- 2 有名な芸術家や美術館の作品の企画展示を中心とした施設
- 3 県展規模の展示ができる施設
- 4 市民の皆さんが自分の作品を自由に発表できるような施設
- 5 市民が創作や体験実習活動を行える施設
- 6 子どもが自由に創作や体験活動を行える施設
- 7 とくにない

美術館の設置についてご意見やご要望があれば自由にご記入ください。

この設問に関連して、美術館の内容について何か具体的な案があればお聞きしたい。

参加者：上田市に美術館がないという問題は数十年にわたるもの。5分や10分で話せという方が無理。またこの設問について、選択肢のうち3つ選べということも無理。どれでも必要なだけ 印を付けるようにすべき。これら選択肢は全て必要。どれを欠いても困る。

副委員長：確かに全て必要と言えば全て必要。しかし、この調査は無作為抽出の市民の皆さんの、ご要望の中心はどこにあるのか、という傾向をお聞きするもの。

参加者：アンケートというのは非常に平均的な意見が高得点を取るわけであり、美術館という特殊性のあるものを平均的な意見で論じられると、これまで話されてきた上田のビジョン、といった部分が削られる恐れがある。多くの美術館を見てきたが、これほど整備の難しい施設はないと感じており、平均的な意見で議論が行われないよう十分配慮してほしい。

副委員長：アンケートが全てということではない。アンケートも1つの手法、パブリックコメントなども1つの手法。また、専門委員会での検討も行っていくが、今のお話はご意見として参考にさせていただきたい。

副委員長：他にご意見は。

参加者：(なし)

副委員長：それではこれで終了としたい。

他にご意見などがあれば、お配りした「ご意見・ご要望記入用紙」をご利用いただきたい。

6 その他(なし)

7 閉会(大沢政策企画局長)



懇談会の様子